

(資料1) 鳥獣被害の実態

(1) 鳥獣被害にあいながらも長野県農業を支える状況

○ 世代交代用幼木保護



長野市

果樹の生産力の落ちる前に幼木を成育させなければならない。この幼木を目がけてイノシシは出沒する。人と樹木とイノシシのせめぎあい。

○ 延々と続く自営工事による防護柵



飯田市

緩衝帯は補助事業で実施。波板トタンによるイノシシの防護壁が延々と700m。まだまだ増設の必要がある。見かねた近隣の住民も工事を手伝いイノシシの進入を何とかくい止める。

○ 自営工事による緩衝帯の設置



大町市

樹園地にせまった他人の所有林を許可を得て伐採。クマの捕獲も2回程あったため、移動ルートを遮断するため、多大な労力を費やす。

(2) 獣の爪あと

○ 耕作地の進入・退出路



長野市

防護柵の弱い部分を探し当て、土を掘り、トタン板を変形させ常用進入路を確保する。

○ 好物のミミズを捕食するために掘り起こした跡



高山村

有機栽培を心がけるもミミズが十分成育し、イノシシの好物となり鼻で掘った跡だけが無残にも残る。幸い樹木近くには有機質がなかったため、樹木への影響は避けられた。高品質の有機栽培もイノシシとの戦いになる。

○ 冬季の食物捕食の爪あと



長野市

雪の重みで垂れた枝を喰いちぎり餌とするイノシシは、後足で立ち上がり 1 m50cm 位までは簡単に届いてしまう。

○人間を警戒しながらも悠然と現れたシカ（18:55）



南牧村

長野県の狩猟期（11月中旬から2月中旬）が終了するのを見計らったように隣県の山梨県で越冬したニホンジカは、作付けの始まる南牧村へ大移動を始める。山林に隣接した八ヶ岳牧場に姿を現したニホンジカ。牧場内のあちこちにシカの糞が散在していた。

○キャベツの食害と踏み荒らされたマルチ



20日前に作付けされたキャベツの圃場は、ニホンジカの格好の餌となる。均一の商品として出荷させるため、この状態では補植もできない。苗の損害額ではわずかであるが、収穫見込額での影響で評価すれば十数倍の影響額となる。

○ニホンジカの被害を防ぐため動員された犬



耕作者は、被害防止のため、圃場に犬をつなぎニホンジカの被害防止に努めている。

○ りんごの枝が折られた跡



高山村

収穫間近のりんごの枝が無残にも折られてしまった。
サルかクマの仕業だと思われる。

○ ハクビシンによるぶどうの食害



生坂村

ハクビシンにより、袋が破られ、中のぶどうの粒を食害された。
一晩で100袋くらいやられるのはザラ。

駆除もしくは個体数を減らしていくことが何より重要な施策と生産者は言う。

○ シカによる大豆の食害



生坂村

昨年から急増したシカにより、大豆が食害され、大豆栽培をあきらめた農家もいる。

○ イノシシによる稲の倒伏被害



山形村

収穫期に出没するイノシシは、稲をしごいて倒すため、穂がとれてしまい収穫ができない状況。

○ イノシシにより水田が掘られた跡



長野市若穂

イノシシの鼻の威力により、水田に穴が掘られ、水田全体が荒らされている。

○ イノシシの足跡



長野市若穂

「輪の直径が 12cm を超えるくくりわなが使用禁止」となっているが、大人のイノシシの足跡は 12cm を超えている。わなにかかるのは「うり坊」ばかり。

○ サルによる大豆の食害



大町市

サルの群れにより、大豆の実が食べられ、広範囲に殻が散乱している。

○ タヌキによるトウモロコシの食害



大町市

トウモロコシが、タヌキに食べられたり、茎が折られてしまい全滅。

タヌキの住む付近には、トウモロコシは作れない。

○ サルにより荒らされたソバ畑



大町市

サルにより、ソバの実が食害されるとともに、踏み散らかされ、収穫できない状態。

(3) 人をも恐れぬサル軍団

- 人家近くで悠然とする一群



大町市

写真に写っているのは3匹だけだが、この辺一帯にいた群は 20 ~ 30 匹。

この集団が収穫時期をねらって出没すれば、一晩で一年の努力の結晶が皆無となる。

- ロケット花火による警告音にも反応しないサルの習性



大きな音も 2 , 3 回聞き、殺傷されないことがわかれば、全然効果はない(ねらって発射することが重要)。最後は男性が追いかけない限り逃げない。女性、老人、子供が追い払おうとすれば、逆に威嚇してくる程の智者。

(4) 越冬用食料の略奪の手口(サル)

- 重い金網を持ち上げ略奪されたじゃがいも貯蔵庫



越冬用じゃがいもも施錠でもしない限り、重量のある金網でも人間と同じ動作で障害物を除去してしまう。挙げ句の果て、追い払うも両脇にちゃっかりいもを抱えて逃げる食糧の略奪者でもある。

。 ナイロン製網による防護貯蔵庫



大町市

網を張るも、中にある乾燥した越冬用ネギを根こそぎサルに略奪される。

(5) 農業は古来から獣との戦いであった

。 飯田市の猪垣の遺構



飯田市

江戸時代に築かれた延長 2 km にもおよぶ猪垣の遺構。
昔から獣との戦いで農業は営まれて来た。

。 塩尻市の猪土手



塩尻市の東山山ろく地籍は、南北に 28km もの猪土手が築かれたそうです。

江戸時代の文献からの解説板が設置されていた。

(6) 捕獲

○ 特定鳥獣保護管理計画（ツキノワグマ）

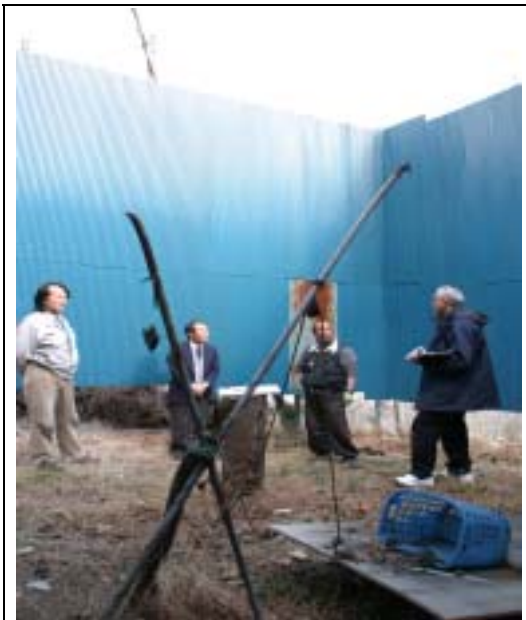


伊那市

農作物に被害の恐れがあるとしても、原則として個体数の調整は許可されない。(予察を目的とした捕獲は許可されない。ただし人身被害の発生の恐れを除く)

被害が発生した時のみ捕獲が許可される。

○ 捕獲オリ（サル）



飯田市

オリにかかっても、4 m の高さの波板トタンの継目に爪をひっかけて逃げるサルもいる。

○ 捕獲オリ（イノシシ）



飯田市

猟友会から借用したイノシシ用のオリにクマがかかってしまい、このオリを破損し逃げることもある。このオリを7～8万円かけて補修しなければならない。損傷しないでクマが逃げられるオリの普及も必要ではないか。